

東秩父村 水道ビジョン — 概要版 —



東秩父村水道事業ビジョン【概要版】

1.水道ビジョンの目的

東秩父村の水道事業は1962年に安戸御堂簡易水道事業から始まりました。その後、拡張と統合を重ね、2009年度に全村を給水区域とする現在の簡易水道事業となりました。

しかし、昨今の人口減少による給水人口の減少や施設の老朽化など問題は山積しています。

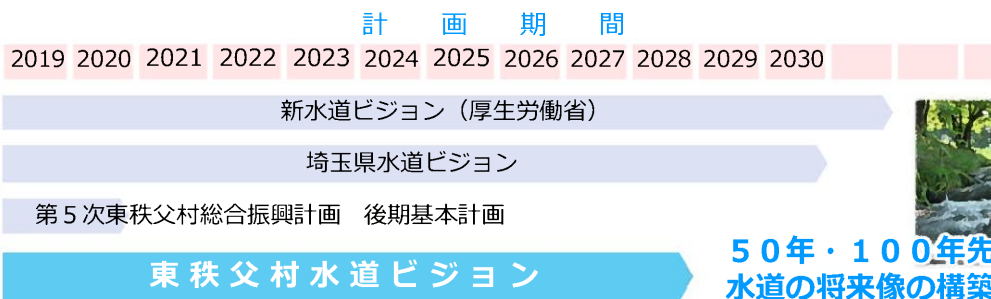
水道ビジョンは、このような状況のもと、

「大切な水をお客様のもとへ - 強靱・安全・持続 -」

を理想に掲げ、50年、100年先の水道の将来像を見据えて、計画的な方策や体制を明示し、村民と共有することを目的としています。

2.水道ビジョンの位置づけと計画期間

東秩父村水道ビジョンの計画期間は、2019年度から2028年度までの10年間とします。



3.東秩父村簡易水道事業の概要

計画給水人口 3,510人 (2017年度)

計画一日最大給水 1,327m³ (2017年度)

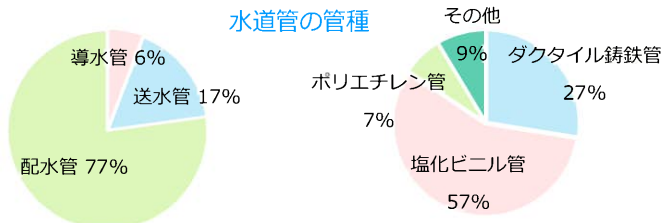
大きく分けて3つの水系があります。

地区	浄水場名	主な給水区域	水源	浄水方法
東	清正公山浄水場	奥沢上・下、向堀、川上、川下、 帯沢、在家1・2、宿	表流水	緩速ろ過
	帯沢浄水場		表流水	緩速ろ過
	入山浄水場		表流水	緩速ろ過
西	白石浄水場	白石、皆谷上・下、栗和田、 新井、柴、坂本中・下	表流水	急速ろ過
	萩平浄水場	萩平、皆谷下	表流水	緩速ろ過
大 内 沢	堂平・白石浄水場	坂本下、大内沢中・下	浅井戸	急速ろ過
	大宝浄水場	大内沢上・中・下	浅井戸	急速ろ過※
	上ノ貝戸浄水場	大内沢上・中	浅井戸	急速ろ過※

※凝集沈殿と急速ろ過を1つのユニットとして運用

水道管の種類

導水管 ・ 取水口から浄水場まで原水を輸送する管
 送水管 ・ 浄水場から配水池へ水道水を輸送する管
 配水管 ・ 配水池から各家庭へ水道水を輸送する管



4.基本理念

強靱

災害に強く、安定した供給が可能な強靱な水道

- ・災害時にも水道水を安定して供給できるように、水道施設と老朽管などを計画的に更新します。
- ・災害時や緊急時の応急給水体制の一層の整備を推進します。

安全

いつでも安心して飲める安全な水道

- ・浄水場を整備し、安定供給を行います。
- ・定期的な水質検査の実施で水質管理を徹底します。



持続

50年、100年先の未来へつなげる持続する水道

- ・健全な水道経営を将来にわたって持続するため、効率的な施設運用を行います。
- ・官民連携による水道サービスの充実や人材確保に取り組みます。

5.課題と施策

分類

目標

内容

I 強靱

- I - 【1】施設の耐震化
- I - 【2】老朽管の更新
- I - 【3】配水管の整備

- ・施設の耐震診断を実施し、危険度を判定します。
- ・老朽化施設を更新し、耐震性を向上させます。
- ・管路の更新を計画的に実施します。
- ・重要施設への給水確保を促進します。
- ・基幹管路の耐震化を促進します。

II 安全

- II - 【1】安定した水源確保
- II - 【2】浄水場の再構築

- ・水源探査で質量ともに良好な水源を確保します。
- ・水源水質に適合した浄水工法で浄水場を再構築します。

III 持続

- III - 【1】財政健全化を確保
- III - 【2】更新需要を見据えた
適正な水道料金体系の
構築
- III - 【3】水運用の再構築
- III - 【4】有収率の向上
- III - 【5】村民サービスの向上

- ・企業会計を導入し財政の強化を図ります。
- ・適正な料金体系を検討します。
- ・今後の水需要に適合した効率的な水運用を構築します。
- ・漏水調査を定期的に行い、漏水量を抑制します。
- ・料金支払い方法の利便性を向上させます。
- ・水道申し込み方法の多様化を検討します。



6. 施策の目標

I 強靱

施設の耐震化

◆水道施設の耐震化を図る上で重要なことは、限られた資金を効率的に活用し、施設の耐震化を促進することです。詳細な耐震診断を行うことで、現有施設の耐震度を評価し、効率的に耐震化を進めることが出来ます。

老朽化施設対策

◆建設から長い期間を経過した施設（老朽化した施設）や詳細耐震診断の結果、耐震性が劣ると評価された施設に対して、施設更新を実施していきます。

管路更新

◆東秩父村の管路のうち、法定耐用年数を超えて使用し続けている管路は約12.6kmあります。対策を講じないと、今後、増大していくことが予想されます。毎年、計画的に管路を更新し、常に健全な状態としていくことが重要です。

基幹管路の耐震化

◆基幹管路とは、管網の水運用上重要な管路のことを言います。基幹管路は「重要施設給水管路」と重複する管路が多数あります。それら管路を考慮して管路の布設替えを促進していきます。

重要施設への給水確保

◆有事の際、避難所となる施設や復旧作業の拠点となる施設など重要施設に対して、水道水を確実に配水する必要があります。老朽管を更新する計画では、それら重要施設を考慮して、早急に耐震化を図る施策を実行します。

II 安全

安定した水源確保

◆水文調査や地質調査を行い、水量や水質が良好な地下水の確保に努めます。降雨時に濁度が上昇した場合、取水を一時中断することがあります。取水制限を極力少なくする施策の一つが、井戸を掘削し地下水を汲み上げる方法です。

浄水場の再構築

◆原水水質に適合した浄水工法を採用して、安全で安定した水道水の供給ができるように再構築します。水道原水水質は良好ですが、小河川から取水しているため、濁度が不安定です。濁度変化に対応できる浄水工法を採用して、安定共有に努めます。

III 持続

財政健全化を確立

◆企業会計を導入して、財務体制の強化をはかります。将来にわたり安定して水道経営ができるように、会計方式の見直しを行います。

更新需要を見据えた適正な水道料金体系の構築

◆水道事業を維持するためには、施設等の維持管理を適切に行う必要があります。それは、水需要が低下し、収入が低下しても変わることはありません。そのため、料金を適宜改定して、その財源とします。

水運用の再構築

◆施設や管路の統廃合を図り、今後の水需要にあった合理的な水運用を目指します。少子高齢化に伴い水需要が減少するなかで、その需要に沿った施設の構築を行い、無駄の少ない施設づくりを目指します。

有収率の向上

◆漏水を修繕して漏水量を抑制することで、有収率を向上します。漏水は、水資源の浪費だけでなく、陥没事故など二次災害の起因にもなります。定期的に漏水調査を実施して、漏水量の抑制を目指します。

村民サービスの向上

◆水道申込方法や料金納付方法等、多様化を検討します。





東秩父村産業建設課